

「もっと身近に、気軽に、花のある暮らし」議事要旨

(開催要領)

1. 開催日時：令和2年12月5日(土)13:00~15:15
2. 場所：山形テルサ
3. 登壇者：
農林水産省生産局園芸作物課 花き産業・施設園芸振興室長 長峰徹昭
GreenSnap 株式会社 代表取締役 西田貴一
山形県立置賜農業高等学校 教諭 遠藤忠樹
山形県立置賜農業高等学校 園芸福祉科3年 井上千華
山形県立置賜農業高等学校 園芸福祉科3年 志田亜美花
山形県立置賜農業高等学校 園芸福祉科2年 島津遥
山形県立置賜農業高等学校 園芸福祉科2年 丹野悠里香
株式会社フォーシーズンズプレス
ベストフラワーアレンジメント編集長 水谷しのぶ
株式会社ヤマシタフラワーズ 取締役 山下笑子
株式会社ヤマシタフラワーズ 山下圭亮

(プログラム)

1. 開会挨拶及び施策説明 長峰徹昭
2. 講演①「新たな生活様式における花のある暮らしとデジタル化の取組」西田貴一
3. 講演②「在来ダリアのウイルスフリー化とニオイ木プロジェクトによる産地活性化SDGsの取組」遠藤忠樹／井上千華／志田亜美花／島津遥／丹野悠里香
4. パネルディスカッション「もっと身近に、手軽に、花とくらすヒント」
ファシリテーター 西田貴一
パネリスト 遠藤忠樹／水谷しのぶ／山下笑子／山下圭亮／井上千華／志田亜美花／島津遥／丹野悠里香
5. 閉会挨拶 長峰徹昭

* 敬称略・順不同

1. 開会挨拶及び施策説明

この20年で花の生産はピーク時に比べて約4割減少、購入金額は3割減となっており、若い人ほど購入金額が低くなっています。新型コロナウイルス感染症の発生により業務用の需要が大きく減少し、切り花の価格はいまだかつてない価格まで低下、危機的な状況に直面しました。その一方で、ホームユースの需要が増加しました。花の利用に対する情報を提

供すれば、潜在的な需要はまだあると考えています。

2. 講演①「新たな生活様式における花のある暮らしとデジタル化の取組」

私たちが提供する GreenSnap は植物の写真を自由に投稿してコミュニケーションするサービスです。毎日2万枚以上のユーザー投稿があります。

新型コロナウイルス感染症の影響でホームユースのニーズが増えたこともあり、GreenSnap のユーザー数も伸びました。そこでオンライン販売事業も開始。さらに新しい取り組みとして、3D 技術を使って実際の植物園を散策できるようなサービスも展開しています。

3. 講演②「在来ダリアのウイルスフリー化とニオイ木プロジェクトによる産地活性化とSDGs の取組」

①遠藤

今年創立 125 周年を迎えた山形県立置賜農業高校では、206 名の学生がさまざまな農業生物を基にした学習をしています。地域の資源植物であるダリアのウイルスフリー化の研究はその1つ。ウイルスフリーを実現した今は、高品質な生産方法を開発すると共に、実際に販売するなど、流通、販売、経営分析の学習も行っています。ダリアのこの取り組みは、SDGs の9個の目標を実現するものです。もう一つ SDGs の観点からニオイ木プロジェクトにも取り組んでいます。ダリアとニオイ木のプロジェクトを通して、経営感覚も含めながら、科学的な視点や社会的な視点、コミュニケーション力を養うことができていると考えています。

②島津

ウイルスフリーのダリアの研究では、通常の開花期間ではない 10 月から3月に開花させるため、温室での電照栽培に挑戦しています。栽培方法では、切り花を多く収穫する方法を実験しました。天花仕立ては、枝茎がよく伸び、花は一番、大きく咲きました。しかし側枝が弱く 50 本の収穫となりました。

③丹野

そこで摘心仕立てを行いました。枝茎4節目で摘心、1節目は除去、2~4節目の側枝は1節目で摘心しました。これら6本の中から4本の側枝を選び、そこから2本ずつ、合計8本の成枝をつくりました。その後は脇芽を伸ばして、10 m²から 400 本収穫できるようになりました。

④志田

ニオイ木プロジェクト研究のきっかけは、川西町で造園業を営む東寒商事、黒澤社長が空気浄化能力のあるスーパー植物を発見したことです。ニオイ木はクサギとも呼ばれ、シソ科の落葉小高木です。臭いを取ることから名前の由来です。実際に実験したところ、不快臭に対して高い浄化能力を科学的に証明できました。

⑤井上

増殖法の確立のための実験は失敗の連続でした。「幼芽から培養する」というアイデアを実施したところ、無菌培養に成功。現在は継代培養を繰り返し、順調に増殖しています。

そしてその苗から、発根順化法により定植苗を作り出し、現在は500本の育苗を目標に量産化に取り組んでいます。今後の課題としては、空気浄化力検証、付加価値を高めた商品を開発することです。

4. パネルディスカッション「もっと身近に、手軽に、花とくらすヒント」

①遠藤

新型コロナウイルス感染症によって、改めて花の魅力を感じることができました。若い時から花に親しみ、そして育てることができたり、楽しみ方を周りの人たちにさりげなく伝えていける人材を育成したりすることが、今後の花の生産・消費に大きく関わってくると思います。そのための仕組み作りが大切だと感じました。

②水谷

新型コロナウイルス感染症の影響で、良い方向に変わったことの1つめは、若い世代の花のビギナーが増えたこと。2つめは、日常的に花を買ったり学んだりする男性、いわゆる花男子が増えたこと。3つめはインターネットの販売が大きな成長を遂げていることです。花と緑を愛でる毎日を送ると、心の体幹が鍛えられると言われています。見えない敵と世界中が戦っている今こそ、花や緑を愛でることに着目してもらいたいと思います。

③山下（笑）

ヤマシタフラワーズは林の落ち葉を熊手で掃き、腐葉土を作り、その腐葉土をポットの^土に使用する循環型落ち葉堆肥農法により、年間約60種類の花の苗を生産しています。

新型コロナウイルスの影響は植栽需要が減り、大きな痛手を受けたわけではありません。種や苗の到着が遅れ、植え付けの時期に到着せず、生産計画が変更になることもたびたびありました。花をより身近に感じていただくために、手間のかからない、難しい世話の要らない丈夫な花を生産し、提案していくことが大事だと思っています。

④山下（圭）

新型コロナウイルス感染症で変わったことは、求人との問い合わせが増えたことです。いいチャンスだと思って、農業を勉強したい、花作りを勉強したいという方が増えました。

より花を身近に感じていただくためには旬の時期や切り花はどのぐらいもつのかなど、商品にQRコードを付けたり、情報検索がしやすい仕組みづくりが必要だと思っています。

⑤井上

新型コロナウイルス感染症は、実習ができなくなるなど、学校生活に大きな影響を与えました。ニオイ木のプロジェクト研究もストップし、そのため花との距離が開いてしまい、少し寂しい気持ちになりました。花を身近に感じ、親しんでもらうためには、Instagram や YouTube など発信することがよいと考えられます。

⑥志田

ステイホームの時間が増えたので、家などで花を活用するのが大切だと思います。私は授業で育てた花を家に持ち帰って育てており、とても楽しい気分を味わっています。それを同年代の若い人たちに知ってもらえるようにしたいと思います。

⑦島津

ネットを通して花の魅力を画像や動画で伝えていくことが大事だと思います。本校では YouTube アカウントを取得し、日々の授業の様子を発信しています。そのアカウントを使って、花の管理やアレンジの様子を配信し、少しずつ花の魅力を伝えていきたいと思っています。

⑧丹野

映像や画像、視覚に訴えることも大事だと思います。ですが、私たちも実際、授業でやってみて、芽が出た、花が咲いたなど、気付くこと、楽しみや喜びを感じることができていると思うので、体験することも大事だと思います。

5. 閉会挨拶

来年、開催予定の東京オリンピック・パラリンピックでは、メダリストに渡すブーケに被災地の花を使うことが決まっています。そうしたところでも、花き業界を盛り上げ、花や緑が、国民の活力、生産者の意欲、地域の活性化につながればよいと思っております。

以上